



令和6~10年度

中村区将来ビジョン

詳細版



目 次

1 はじめに

将来ビジョン策定にあたって	P 1
将来ビジョンとは	P 2

2 区の概要

沿革と概況	P 3
中村区の特徴	P 6
中村区をとりまく状況	P 9

3 中村区がめざすまちのすがた

基本目標	P 1 6
中村区がめざすまちのすがた	P 1 6
基本目標達成に向けた取り組み	P 1 8

4 各施策について

施策 1	大規模災害に備え、自助・共助・公助による 地域防災力の向上に取り組みます	P 1 9
施策 2	交通安全対策・防犯対策を推進します	P 2 1
施策 3	きれいなまちづくりを推進します	P 2 2
施策 4	安心して子育てができる「支え愛」のまちを目指します	P 2 3
施策 5	高齢者が地域で安心して暮らせるよう支援します	P 2 4
施策 6	障害者が自立して安心して暮らせるよう支援します	P 2 5
施策 7	区民の健康づくりを推進します	P 2 6
施策 8	区民が地元に愛着を持ち、多くの人が訪れる活力に みちたまちづくりを推進します	P 2 7
施策 9	区民の交流を図るため、文化・芸術・スポーツ活動の 普及を推進します	P 2 8
施策 10	地域コミュニティの推進・支援に取り組みます	P 2 9
施策 11	多文化共生のまちづくりを推進します	P 3 0
施策 12	身近で信頼される区役所づくりに取り組みます	P 3 1

5 中村区将来ビジョン策定経過について

P 3 2

1 はじめに

将来ビジョン策定にあたって

中村区役所では、区民の皆さまとともに地域の課題解決や区の特성에応じたまちづくりに取り組んでいくために、令和2（2020）年度から令和5（2023）年度を計画期間として、『第1期中村区将来ビジョン』を策定し、基本目標を『「夢」・「笑顔」・「やさしさ」あふれるまち中村区』と掲げ、皆さまにもご協力いただき、各種事業に取り組んでまいりました。

このたび、区民会議などで区民の皆さまからいただいたご意見や、中村区を取り巻く状況の変化などを考慮し、令和6（2024）年度から令和10（2028）年度を計画期間とした『第2期中村区将来ビジョン』を策定いたしました。基本目標を『誰もがいきいきとすごせるまち 中村』と掲げ、今後も、区民の皆さまのご意見をいただきながら、各種事業を実施してまいりますので、引き続き皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

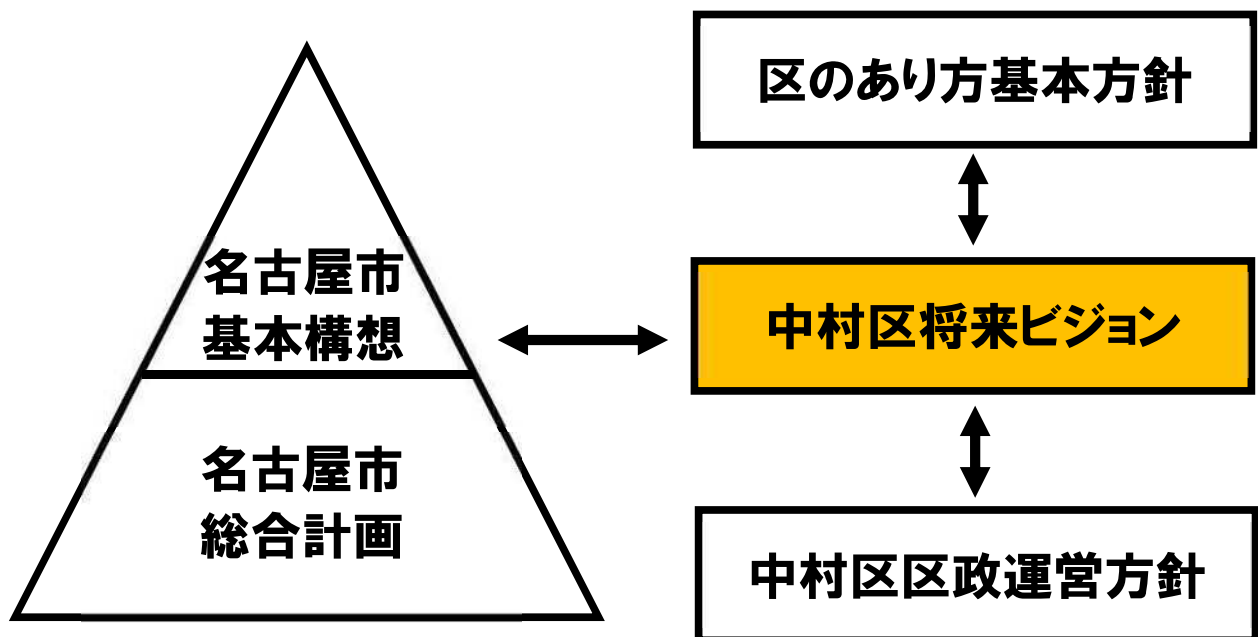
中村区役所

将来ビジョンとは

地域の課題解決やまちづくりに取り組むため、基本目標として中村区がめざすまちのすがたを示す中長期計画です。

計画期間：令和 6(2024)年度から令和 10(2028)年度

将来ビジョンの位置づけ



※名古屋市総合計画とは

市政運営の指導理念である「名古屋市基本構想」のもと、本市がめざす都市像などを「長期的展望に立ったまちづくり」として示し、その実現に向けた取り組みを総合的・体系的に取りまとめたものです。

※区のあり方基本方針とは

人と人とのつながりの希薄化や行政に求められるニーズの多様化を背景として策定された、「めざすべき区役所像」をはじめとした区役所の果たす役割・方向性を示したものです。（策定：平成 29（2017）年 3 月）

※区政運営方針とは

「区将来ビジョン」に基づいた区の具体的な取り組みについて示したものです。（年度ごとに策定）

2 区の概要

沿革と概況

- ・面積 16.3 km² (11 位)
- ・世帯 78,061 世帯 (7 位)
- ・人口 140,093 人 (10 位)

※令和 5 年 10 月 1 日現在

出典：統計なごや Web 版

- ・昭和 12 (1937) 年 10 月の 10 区制実施により、中区と西区の一部を分離して創設されました。
- ・当時の愛知郡中村の地が区域の大部分を占めていたことから「中村」と命名されました。
- ・市の西部に位置し、西・中・中川区、清須市、あま市、大治町と隣接しています。
- ・人口は創設時より増加傾向が続き、昭和 30 年代終わり及び昭和 40 年代初めには一時 20 万人を超えていました。昭和 40 年代半ばからは減少が続きましたが、平成 17 (2005) 年には 37 年ぶりに増加し、その後は増減を繰り返しています。
- ・人口構造としては、65 歳以上の人口比率が市全体の比率より高く、15 歳未満の人口比率が市全体の比率より低くなっています。
- ・区の東部は名古屋駅を中心としたビジネス街、商店街、地下街が広がり名古屋の経済活動の中心的役割を担っています。近年、名古屋駅周辺では超高層ビル群が建設され、将来のリニア中央新幹線の開業や駅整備を見据えた活気に満ちたまちづくりが進んでいます。

- ・ 区の中・西部は、商店やマンションが立ち並ぶ一方、昔ながらの木造家屋も多く見られます。また、この地域には歴史的・文化的史跡も多く残っています。特に、中村公園一帯は、戦国の英傑ゆかりの史跡が多く見られます。
- ・ 区の西側を流れる庄内川の堤防沿いには、枇杷島橋から横井大橋にかけての河川敷を利用した緑地が連なり、稲葉地公園や横井山緑地などの公園を加え、広範囲な緑地帯が見られます。
- ・ 神社、仏閣が多く、伝統的な祭が各地で開催されています。



きねこさ祭



太閤まつり



花車神明社祭

■区のシンボルマーク



全体は中村区の「中」を表し、左側にム、右側にラとした今まさに大空に向かって飛びたとうとしている鳥のイメージを表現したもので、区政 50 周年記念事業として、昭和 62（1987）年 4 月公募により制定しました。

■区の花



スイセン

（ひがんばんな科）

市政 100 周年記念事業として、平成 2（1990）年 3 月公募により制定しました。

■区の木



サツキ

（つつじ科）

区政 50 周年記念事業として、昭和 62（1987）年 4 月公募により制定しました。

■区役所のキャラクター



中村区が豊臣秀吉誕生の地であることにちなみ、秀吉の幼名とその妹を区役所の広報に活用しています。

とみまつは、交通安全マスコットキャラクターとして交通安全のため、広報啓発に努めています。

中村区の特性

リニア中央新幹線の開業

今後、リニア中央新幹線の品川—名古屋間の開業が予定されています。さらに、大阪まで延伸されると、東京—名古屋—大阪の三大都市圏が約1時間で結ばれ、世界最大の人口を有する巨大交流圏の中心に位置することになります。

また、令和8（2026）年にはアジア・アジアパラ競技大会が開催される他、令和9（2027）年度には中部国際空港の第二滑走路の供用開始も予定され、名古屋駅周辺では国内外を問わない交流の拡大が期待されています。

これらのビジネス、観光などにおける交流拡大の機会を活かそうと名古屋駅を有する中村区では、名古屋駅周辺で超高層ビル群が建設されています。今後も、名古屋駅周辺ではリニア駅の整備などに連動した再開発が予定されているほか、新しい住宅の建設も進んでおり、リニア中央新幹線開業後を見据えた活気に満ちたまちづくりが進められています。

大規模災害時の多様なリスク

名古屋駅周辺は、超高層ビルが立ち並ぶ名古屋有数のビジネスや商業の中心地となっていますが、大規模災害が起きた時には多くの帰宅困難者が発生することが想定され、その対策が課題となっています。

一方で、名古屋駅周辺以外の区内には、木造住宅が密集している地域が広く分布しており、大規模地震が発生した場合、家屋の倒壊や火災の延焼による被害が懸念されています。また、区内全域に液状化現象の発生の可能性があります。

加えて、庄内川に隣接していることから、大雨による洪水（外水はん濫）が発生した場合、区内全域に浸水被害が出ることが想定されています。近年、自然災害の激甚化が進んでいることや高齢者、障害者、外国人など災害時に配慮が必要な方が増加していることから、「公助」のほか、地域住民の「自助」「共助」につながる防災意識をより一層高めて、大規模災害に備えることが必要です。

現代に伝わる有形・無形の歴史資産

中村という地名は、古くは「倭名抄（平安中期の漢和辞書）」にその名が掲載されるなど長い歴史をもつ地であり、その時代から多くの神社、仏閣が建立され、区内には現在でも神社仏閣をはじめとする多くの史跡が残っています。

中村公園一帯は豊臣秀吉、加藤清正の生誕の地と伝わっており、豊臣秀吉を祀る豊國神社や加藤清正の出生地といわれる妙行寺などゆかりのある史跡があり、「武将のふるさと」としての魅力をもつ一帯となっています。

また、太閤秀吉を偲んで行われる「太閤まつり」や、名古屋市無形民俗文化財の「きねこさ祭」や花車神明社祭の山車行事など伝統文化が色濃く残っており、有形無形の歴史資産は中村区の大きな魅力となっています。

専門性を持った大学や専門学校が集積

中村区内には、愛知大学の名古屋キャンパスや同朋大学、名古屋音楽大学があり、区役所と包括連携協定を締結して、その専門性などを活かし、様々な場面で区役所の事業にご協力いただいています。

また、名古屋駅を中心に多くの専門学校があり、高い専門性を持った学生が集まっています。こうした専門学校も様々な場面で区役所の事業にご協力いただいています。

盛んな地域活動やまちづくり活動

中村区内では以前から、子どもから高齢者までコミュニティ活動が続いている地域が多く、学区内の様々な団体の代表等で構成された学区連絡協議会を中心に、防犯・防災や地域での行事等、地域活動が盛んに行われています。

また、近年では、各商店街や名古屋駅地区街づくり協議会や名古屋駅太閤通口まちづくり協議会をはじめ、新たなまちづくり団体が様々な活動を行っており、リニア中央新幹線開業後を見据えて住民等によるまちづくり活動が活発に行われています。

TOPIC!

名古屋駅から、豊臣秀吉の生誕地（豊公誕生之地）の石碑が立つ中村公園までのルート「太閤秀吉功路 人生大出世夢街道」と命名し、そのルートに道しるべとして太閤秀吉モニュメントを設置しました。このルートを活用した名古屋駅西側の活性化に取り組んでいます。



- …史跡
- ▲ …武将の案内板
- ★ …モニュメント
- ★ …モニュメント（金色）



太閤秀吉モニュメント

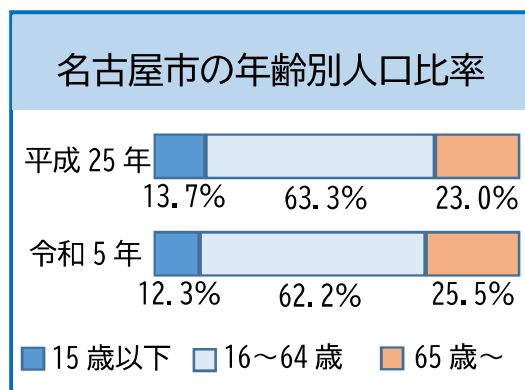
中村区をとりまく状況

人口減少・少子高齢化	障害者福祉	多文化共生
地域の担い手不足	空家の増加	交通安全
防犯	環境衛生	地震・風水害
感染症の影響	デジタル技術の活用	民間活力の導入
リニア中央新幹線	区の歴史・文化	SDGs

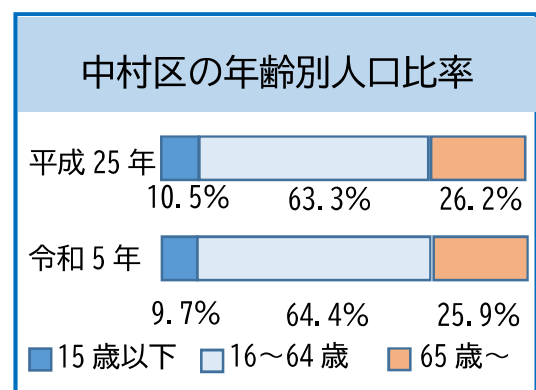
(1) 人口減少・少子高齢化

本市の人口は、24年連続で増加していましたが、令和3（2021）年に減少に転じています。また、出生数から死亡数を引いた人口の自然減は平成25（2013）年から年々拡大しており、平均寿命が延びていることと併せて、今後、少子高齢化がさらに進んでいく事が見込まれます。また、中村区では名古屋市全体と比較して15歳以下の人口比率が低くなっています。

こうした状況に対応するため、安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つことや、高齢者を始め誰もが地域の中で孤立せず、心身共に健康にすごせることが望まれます。



出典：統計なごや Web 版



出典：統計なごや Web 版

(2) 障害者福祉

中村区の障害者手帳所持者数は年々増加をしており、令和 4（2022）年度には 8,370 人と、平成 24（2012）年度の 7,405 人と比較をすると 1 割強の増加となっています。

今後も障害者への理解を一層促進するなど、地域における共生社会の実現が望まれます。

(3) 多文化共生

中村区の在留外国人は増加傾向にあり、特にネパール人、ベトナム人の比率が高いのが特徴となっています。今後、リニア中央新幹線の開業により交流人口の増大が見込まれることから、さらなる在留外国人の増加が予想されます。

中村区役所では令和 3（2021）年度より外国人総合受付を設置し、区役所の手続きのサポートをしています。今後は、在留外国人の方が地域の中で共生し、安心して暮らせる取り組みが望まれます。

(4) 地域の担い手不足

中村区ではこれまで学区連絡協議会を中心に、各種の地域活動が盛んに行われてきました。しかし、価値観やライフスタイルの多様化や少子高齢化の進行など様々な要因から、地域における後継者、新たな地域活動の担い手不足が深刻化しています。

大規模災害への備えはもとより、誰もが取り残されず、安心して暮らしていくためには地域活動の担い手が確保されることが望まれます。

(5) 空家の増加

中村区では、高齢化の進行などにより空家が増加し、令和 4（2022）年度には管理が適切でない空家の通報件数が 128 件と平成 27（2015）年度の 81 件の約 1.6 倍の数となっています。このような空家や空き地の増加は、区民の快適な生活を損ねることにもつながります。

(6) 交通安全

中村区内の人身事故の発生件数は、平成 25（2013）年（1～12 月）の当時の 972 件と比較して令和 5（2023）年では 702 件と大幅に減少しています。特に、新型コロナウイルス感染症の流行期間中は、交通量や流動人口が減ったことなどにより顕著に減少しました。

コロナ禍後に社会活動が本格的に再開し、交通量の増加が見込まれますが、着用が努力義務化された自転車ヘルメットの着用率は 13.2%（令和 5 年度実施区民アンケート）に留まっています。今後は、高齢者のさらなる増加も見込まれることから、地域と行政がこれまで以上に協力し、誰もが安全に快適にすごせるまちを実現することが望まれます。

(7) 防犯

中村区内の刑法犯認知件数は、平成 25（2013）年（1～12 月）以降減少していましたが、令和 3（2021）年以降は増加に転じており、令和 5（2023）年は令和 2（2020）年と比較して約 4 割増加の 2,225 件となっています。特に自転車盗が増加傾向にあります。

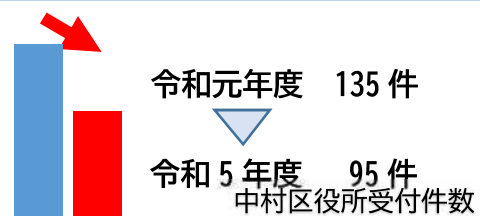
今後とも、地域と行政が協力し、子どもから高齢者まで、安心して快適にすごせるまちでありつづけることが望まれます。

(8) 環境衛生

中村区内の犬のフンや猫のえさやりに関しては、一定数の苦情が毎年届けられています。

今後も啓発活動の推進などにより、犬・猫の飼い方のマナー向上や、無責任なえさやりの防止に努め、快適な環境づくりを行うことが望まれます。

中村区の
猫のえさやりなどの苦情・相談件数



(9) 地震・風水害

駿河湾以西の太平洋岸沖合にある南海トラフを震源とする大規模な地震の発生確率が今後 30 年間で 70～80%と想定されていますが、中村区では建物全壊・焼失が約 12,000 棟と全市で最も大きな被害が想定されています。また、名古屋駅周辺には今後のリニア中央新幹線の開業に伴い、交流人口の増加が見込まれることから、大規模災害発生時の帰宅困難者対策は大きな課題です。

風水害についても、近年記録的な大雨による甚大かつ広域的な災害が全国で多発しており、想定し得る最大規模の災害にも対応していくためには公助の取り組みだけではなく、自助・共助の取り組みを強化することも必要となります。

高齢者、障害者、外国人など災害時に配慮が必要な方が増加していることから、今後、地域での支え合いを充実させ、災害が起きても誰一人取り残されることのない、災害に強いまちを実現する必要があります。

(10) 感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の急拡大は、医療逼迫、度重なる行動制限、それに伴う経済活動の停滞などにより、市民生活・経済活動全般に多大な影響を与えました。

中村区においても、地域コミュニティの活動が制限され、交流機会が減少した結果、様々な面で暮らしにくさを感じている方が増加しています。

今後はこの経験を活かし、いつ発生するかわからない感染症に対しての備えを強化するとともに、すべての区民が心身共に健やかに生活が出来るよう、衛生的な生活環境が整ったまちづくりや地域での交流機会を取り戻していくことが望まれます。

(11) デジタル技術の活用

スマートフォンの普及率が平成 22（2010）年頃から急速に高まったことや、新型コロナウイルス感染症の拡大により、非接触・非対面での生活様式が進展したこともあり、デジタル技術が身近なものとなり、市民生活は大きく変化してきました。

また、AI が幅広い分野で活用されており、生成 AI の活用可能性が議論されています。

こうしたデジタル技術を適切に活用していく事により、市民サービスを向上させるとともに、その恩恵が年齢、障害の有無、国籍などによる格差が生じることなくあらゆる人が享受できることが望まれます。

(12) 民間活力の導入

コロナ禍や少子高齢化の進行、災害の激甚化など、近年、本市を取り巻く状況が大きく変化する中で、社会課題等も多様化・複雑化しています。

こうした状況の中で、質の高い公共サービスを継続的に提供していくためには、企業・学校等様々な民間のアイデアやノウハウ、ハード・ソフト両面の資源を活かした公民連携の取り組みを進めていくことが望まれます。

(13) リニア中央新幹線

今後、リニア中央新幹線の品川－名古屋間の開業が予定されています。さらに、大阪まで延伸されると、世界最大の人口を有する巨大交流圏が形成され、本市はその中心都市となります。また令和9（2027）年度には中部国際空港の第二滑走路の供用開始も予定されています。そのため、名古屋駅を中心とするエリアでは国内外を問わない交流の拡大が期待されており、特に名古屋駅周辺では再開発などの都市基盤整備が計画的に進められています。

一方、今後の本格的な人口減少局面において、地域商業や地域コミュニティの持続的な発展には、こうした増加の見込まれる交流人口を名古屋有数のビジネスや商業の中心となっている名古屋駅周辺から、歴史・文化や商店街のある名古屋駅西側にも引き込んでいく必要があり、地域の魅力向上・魅力発信がなされていくことが望まれます。

(14) 区の歴史・文化

中村公園を始めとする、豊臣秀吉・加藤清正など戦国武将ゆかりの史跡や中世以降に数多く建立された神社仏閣など、区内には歴史的な資産が多く残っています。

また、太閤秀吉を偲んで行われる「太閤まつり」、名古屋市無形民俗文化財の「きねこさ祭」や花車神明社祭の山車行事など伝統文化が色濃く残っており、有形無形の歴史資産は中村区の大きな魅力となっています。

加えて、稲葉地公園には演劇練習館（アクテノン）が平成7（1995）年に開館し、演劇、舞踊等をはじめ各種の舞台芸術に多くの人が親しんでいることが区の文化の特徴となっています。

さらに、近年ではアニメなどのポップカルチャーエリアが広がる名古屋駅西側、劇場などで各種公演が行われる名駅南やささしまライブなどが、新しい文化の発信地となっています。

こうした歴史・文化は区の大きな魅力であり、文化を通して区民の繋がりを作ることや、区の魅力を市内外へ発信していく事が望まれます。

(15) SDGs（持続可能な開発目標）

名古屋市は、令和元（2019）年7月に内閣府より、優れた取り組みを提案する自治体として「SDGs 未来都市」に選定され、「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりに向けた取り組みを進めています。



3 中村区がめざすまちのすがた

中村区は、人口減少や少子高齢化が進む中、将来を担う子どもや子育て世帯に住み続けたいと思ってもらえるような「まち」であるべきと考えています。また、公共の支援が必要な高齢者、障害者、外国人などが安心して暮らしていけるような誰も取り残されない「まち」にしていくことも必要です。

ここに挙げた「まち」を実現していくためには、地域の担い手が確保され、地域活動が活発に行われる「まち」であることが重要です。このような「まち」においては、地域で協力することができているため、健やかに、快適にすごせる「まち」となり、災害時にも安心できる「まち」となります。特に、地域の文化・スポーツ行事やまちづくり活動において、民間企業や学生などの皆さまが活躍することで、地域の魅力あふれる「まち」となり、区民のいきいきとした暮らしにつながると考えています。

こうした考えに基づき、中村区では「誰もが いきいきとすごせるまち 中村」を基本目標とし、以下の8つのめざすまちのすがたを掲げ、各種施策に取り組んでまいります。

基本目標

誰もが いきいきとすごせるまち 中村

中村区がめざすまちのすがた

① 災害が起きても安心なまち

災害を自分ごととして捉え、発災時には地域で助け合える、区民一人ひとりが高い防災意識を持ったまちをめざします。

② 誰も取り残されないまち

公共の支援が必要な子育て世帯、高齢者、障害者、外国人などが、適切な支援を受け、安心して暮らせるまちをめざします。

③



文化・スポーツでつながるまち

区の文化・スポーツ活動等を通じて、区民のつながりができ、交流が活発に行われているまちをめざします。

④



地域で支え合うまち

地域の担い手が確保され、地域活動が活発に行われるようになることで、すべての区民が地域の中で安心して生活できるまちをめざします。

⑤



地域の魅力あふれるまち

区の魅力的な地域や文化に区民が愛着を持ち、区の魅力が市内外に発信されているまちをめざします。

⑥



子どもがのびのび育つまち

少子高齢化が進む中、子どもや子育て世帯が必要な支援を受けることのできる仕組みが充実したまちをめざします。

⑦



健やかにすごせるまち

感染症への対策が強化され、衛生的な生活環境が整っている中で、すべての区民が心身共に健やかに生活できるまちをめざします。

⑧



快適にすごせるまち

交通安全対策・防犯対策・空家対策等が進められ、誰もが安全で安心して快適にすごせるまちをめざします。

基本目標達成に向けた取り組み

- 施策1 ➤ 大規模災害に備え、自助・共助・公助による
地域防災力の向上に取り組めます
- 施策2 ➤ 交通安全対策・防犯対策を推進します
- 施策3 ➤ きれいなまちづくりを推進します
- 施策4 ➤ 安心して子育てができる「支え愛」のまちを目指します
- 施策5 ➤ 高齢者が地域で安心して暮らせるよう支援します
- 施策6 ➤ 障害者が自立して安心して暮らせるよう支援します
- 施策7 ➤ 区民の健康づくりを推進します
- 施策8 ➤ 区民が地元で愛着を持ち、多くの人を訪れる
活力にみちたまちづくりを推進します
- 施策9 ➤ 区民の交流を図るため、文化・芸術・スポーツ活動の
普及を推進します
- 施策10 ➤ 地域コミュニティの推進・支援に取り組めます
- 施策11 ➤ 多文化共生のまちづくりを推進します
- 施策12 ➤ 身近で信頼される区役所づくりに取り組めます

4 各施策について

施策1

大規模災害に備え、自助・共助・公助による地域防災力の向上に取り組めます

- ①  災害が起きても安心なまち ②  誰も取り残されないまち
- ④  地域で支え合うまち

○現状と課題

頻発化・激甚化する風水害や発生確率が高まっている南海トラフ地震などの大規模災害に備えるため、区民一人ひとりの防火防災意識の向上や、地域の災害対応力の向上が必要です。

中村区の災害時の課題

- ・木造住宅密集地域における家屋倒壊、地震火災の延焼等
- ・リニア中央新幹線開業に伴う、発災時の帰宅困難者の増加
- ・高齢者・障害者・外国人などの要配慮者に対する避難支援

近くの指定緊急避難所、指定避難所を知っている中村区民割合



令和4年度実施中村区区民アンケート

○成果指標

成果指標	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和10年度)
ハザードマップなどで自宅周辺の災害リスクを確認している区民の割合	73.6%	100%
発災時の避難行動を事前に検討する「マイ・タイムライン」を知っている区民の割合	22.0%	60%
発災時に高齢者や障害者など配慮が必要な方を地域で助け合うことができると思う区民の割合	29.7%	60%

○主な事業

- ① 地域と連携した防災訓練の実施・防災知識の啓発活動
- ② 区民の防災・減災意識の醸成
- ③ 自助力向上の啓発・支援
- ④ 自主防災組織の活動支援
- ⑤ 防災安心まちづくり事業の推進
- ⑥ 火災予防対策の推進
- ⑦ 子づれ防災教室等を通した子育て世帯への防災啓発
- ⑧ 区本部機能の強化
- ⑨ 道路・公園、河川などの適切な維持管理



区民の防災・減災意識の醸成

施策2 交通安全対策・防犯対策を推進します

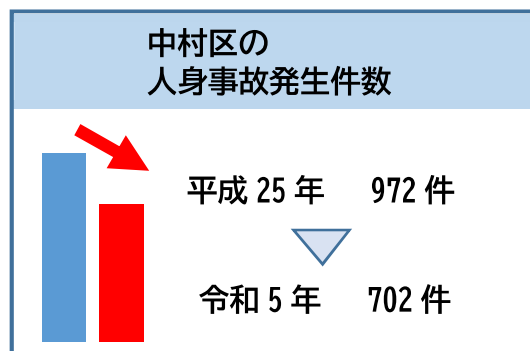
②  誰も取り残されないまち

④  地域で支え合うまち

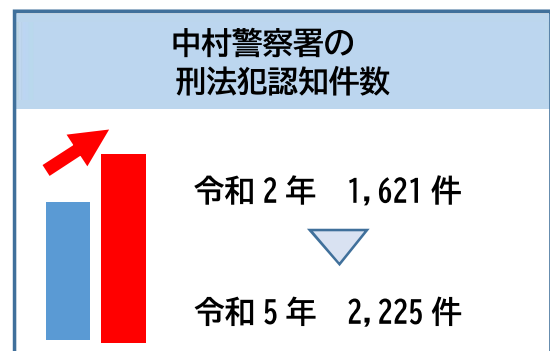
⑧  快適にすごせるまち

○現状と課題

人身事故発生件数は減少傾向にありますが、事故による被害を更に減らすため、全年齢で着用が努力義務化された自転車ヘルメットの着用率向上を目指す必要があります。また、自転車盗など犯罪件数も依然として多いため対策が必要です。



出典：愛知県警「愛知県の交通事故発生状況」



出典：愛知県警「発生地別件数」

○成果指標

成果指標	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 10 年度)
自転車ヘルメット着用率	13.2%	60%
自転車のツーロックをしている区民の割合	24.9%	45%

○主な事業

- ① 交通安全対策の推進
- ② 防犯対策の推進
- ③ 高齢者への交通安全・生活安全啓発



施策3 > きれいなまちづくりを推進します

- ④  地域で支え合うまち
⑧  快適にすごせるまち

- ⑦  健やかにすごせるまち

○現状と課題

一部で、ごみ出しや分別マナーが守られていないため啓発が必要です。適正な管理がされていない空家、雑草やごみ等で汚れた空き地が増加していて、防災、衛生、景観等の面で地域の生活環境に影響をおよぼしています。

また、地域の犬・猫について迷惑と感じる方がいます。ペットの飼い主のマナー向上と、のら猫による迷惑防止への取り組みが必要です。



中村区役所受付件数



中村区役所受付件数

○成果指標

成果指標	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 10 年度)
空家解消率（当該年度）	45.5%	50%超
犬猫による迷惑に係る申出件数	166 件	150 件以内

○主な事業

- ① 資源・ごみの分別方法などの啓発
- ② 空地・空家等対策の推進
- ③ 名古屋駅前におけるより良い環境衛生・食品衛生の実現
- ④ ペットと暮らすきれいなまちづくり運動



施策4 安心して子育てができる「支え愛」のまちを目指します

- ②  誰も取り残されないまち
- ④  地域で支え合うまち
- ⑥  子どもがのびのび育つまち
- ⑦  健やかにすごせるまち
- ⑧  快適にすごせるまち

○現状と課題

子育て世帯の交流、情報交換の機会の周知と、子育てに悩んでいる方への相談支援の充実を図る必要があります。

○成果指標

成果指標	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和10年度)
子育てイベントに参加した人数	1,900人	2,000人

○主な事業

- ① 子育て世帯への情報発信と相談支援の充実
- ② 保育施設利用申込み支援の推進
- ③ 幼児の健康診査時の「子育て遊びの広場」の実施
- ④ 妊娠期からの切れ目のない子育て支援の推進
- ⑤ 第5次中村区地域福祉活動計画の推進
- ⑥ 地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業の推進



施策5 高齢者が地域で安心して暮らせるよう支援します

②  誰も取り残されないまち

⑦  健やかにすごせるまち

④  地域で支え合うまち

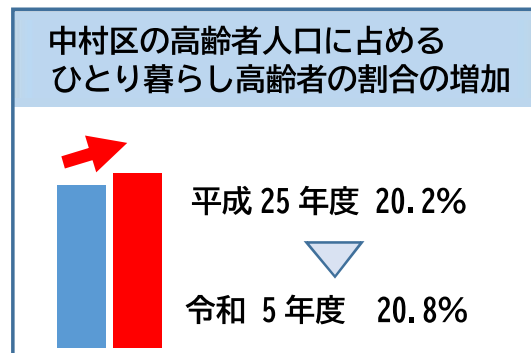
⑧  快適にすごせるまち

○現状と課題

中村区の高齢化率は市平均と比較して高くなっています。ひとり暮らし高齢者、要支援者・要介護者等の割合が高く、支援を必要としている高齢者が増えています。

中村区の 65 歳以上人口比率 ※（ ）内は 75 歳以上	
令和 5 年 10 月 1 日現在	
中村区	25.9% (15.1%)
名古屋市	25.5% (14.5%)

出典：統計なごや Web



出典：健康福祉局「ひとり暮らし高齢者の認定基準」に基づく調査

○成果指標

成果指標	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 10 年度)
相談できる人が隣近所や地域にいる、 または相談先となる行政機関を知って いる高齢者（60～64 歳含む）の割合	59.0%	70%
認知症サポーター養成講座受講者数 (累計)	15,784 人	20,000 人

○主な事業

- ① 認知症の人と家族に対する支援
- ② 地域包括ケアシステムの深化・推進のための地域活動支援
- ③ 第 5 次中村区地域福祉活動計画の推進
- ④ 地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業の推進
- ⑤ 高齢者への交通安全・生活安全啓発

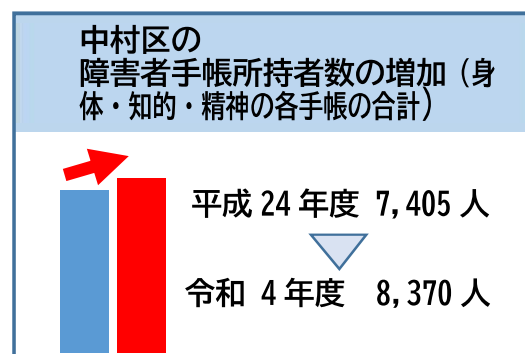


施策6 障害者が自立して安心して暮らせるよう支援します

- ②  誰も取り残されないまち
- ④  地域で支え合うまち
- ⑦  健やかにすごせるまち
- ⑧  快適にすごせるまち

○現状と課題

障害者が自立して安心して暮らせるよう、障害者に対する理解、地域における共生社会の実現に向けた啓発活動を充実する必要があります。



健康福祉局調べ

○成果指標

成果指標	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 10 年度)
授産製品を購入したことがある区民の割合	36.4%	45%

○主な事業

- ① 障害者に対する理解と自立支援の促進
- ② 第 5 次中村区地域福祉活動計画の推進
- ③ 地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業の推進



施策7 区民の健康づくりを推進します

⑦  健やかにすごせるまち

⑧  快適にすごせるまち

○現状と課題

赤ちゃんからお年寄りまで健康で心豊かにすごすために、健康づくり事業や介護予防事業、各種がん検診などを周知する必要があります。

○成果指標

成果指標	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和10年度)
健康づくりに取り組む区民の割合	42.9%	55%

○主な事業

- ① 区民の健康づくり活動の支援
- ② 出張健康相談の実施
- ③ 結核の発症予防と治療支援



健康元気クラブ運動指導



施策8

区民が地元へ愛着を持ち、多くの人を訪れる活力に
みちたまちづくりを推進します



③ 文化・スポーツでつながるまち



④ 地域で支え合うまち



⑤ 地域の魅力あふれるまち



⑦ 健やかにすごせるまち

○現状と課題

中村区には秀吉ゆかりの中村公園はじめ魅力的な地域や文化があります。その地域や文化に区民が愛着を持ち、区外や市外の多くの人を訪れるまちにする必要があります。

太閤秀吉功路について

名古屋駅から秀吉生誕地の石碑が立つ中村公園までを「太閤秀吉功路 人生大出世夢街道」と命名し、このルートを活用した地域活性化に取り組んでいます。



太閤秀吉モニュメント

※詳細はP8で紹介

○成果指標

成果指標	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和10年度)
太閤秀吉功路の認知度	42.8%	60%
区民まつりに行ったことがある区民の割合	49.8%	70%

○主な事業

- ① 太閤秀吉功路を活用した名古屋駅西側の地域活性化事業
- ② 区民まつりの実施
- ③ 尾張中村めしの事業の推進
- ④ わたしたちのまち中村事業
- ⑤ なかむら音楽会の実施
- ⑥ 中村アクトースタウン事業の推進



施策9 区民の交流を図るため、文化・芸術・スポーツ活動の普及を推進します

- ③  文化・スポーツでつながるまち
- ④  地域で支え合うまち
- ⑤  地域の魅力あふれるまち
- ⑥  子どもがのびのび育つまち
- ⑦  健やかにすごせるまち

○現状と課題

文化芸術活動に対する区民の関心とスポーツ実施率の向上を通じ、地域の交流を促進するため、文化・芸術・スポーツ活動を実施し、普及させる必要があります。

○成果指標

成果指標	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和10年度)
日頃から文化・芸術・スポーツ活動をしている区民の割合	35.0%	70%

○主な事業

- ① 生涯スポーツの推進
- ② ユニバーサルスポーツの推進
- ③ 文化芸術活動の推進



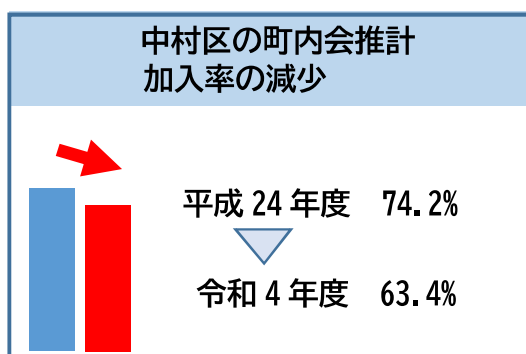
区民体育大会



- ①  災害が起きても安心なまち
- ④  地域で支え合うまち
- ⑤  地域の魅力あふれるまち

○現状と課題

町内会の加入率が低下しているため、地域活動の担い手不足の解消などの対策が必要です。



出典：スポーツ市民局「学区別生活環境指標」

地域の中で後継者・ 新たな担い手の確保の必要

18 学区中、14 の学区連絡協議会が最も重要な課題であると回答

出典：令和 4 年度区実施アンケート

○成果指標

成果指標	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 10 年度)
日頃から地域活動に参加している区民の割合	28.2%	35%

○主な事業

- ① 地域コミュニティの活性化支援
- ② コミュニティセンターの有効活用支援
- ③ コミュニティサポーターによる相談支援



地域の担い手づくりワークショップ



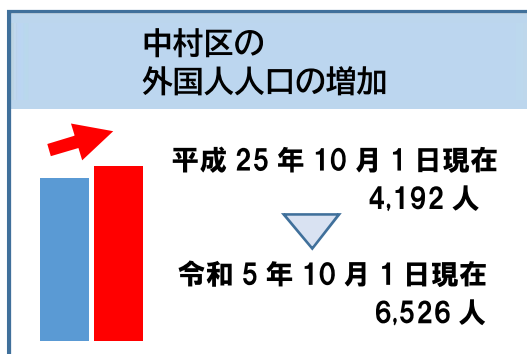
施策 11 多文化共生のまちづくりを推進します

- ②  誰も取り残されないまち
⑧  快適にすごせるまち

- ④  地域で支え合うまち

〇現状と課題

中村区では近年、特にネパール人・ベトナム人の留学生が増えており、日本人と共に留学生などの外国人も安心して暮らせるようサポートが求められています。そのため、区役所窓口での案内や情報提供を充実させる必要があります。



出典：総務局「毎月 1 日現在の国籍・地域別
外国人公簿人口（全市・区別）」

多文化共生について

多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

〇成果指標

成果指標	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 10 年度)
多文化共生という言葉を知っている区民の割合	30.3%	40%

〇主な事業

- ① 区役所窓口外国人総合案内事業
- ② 外国人向けに SNS 等を活用した情報発信の強化
- ③ ユニバーサルスポーツの推進



施策 12 身近で信頼される区役所づくりに取り組みます

- | | |
|--|--|
| ①  災害が起きても安心なまち | ②  誰も取り残されないまち |
| ③  文化・スポーツでつながるまち | ④  地域で支え合うまち |
| ⑤  地域の魅力あふれるまち | ⑥  子どもがのびのび育つまち |
| ⑦  健やかにすごせるまち | ⑧  快適にすごせるまち |

○現状と課題

区役所での手続きが煩雑でわかりにくい、繁忙期などは窓口での待ち時間が長いことなどから、窓口業務の改善や職員の接遇能力の向上が求められています。その一つとして、「待たなくてもよい」「書かなくてもよい」「分かりやすい」をコンセプトとした、スマート窓口の導入等の行政手続きのオンライン化を進めております。

また、区役所の事業や業務を十分に伝えられていないため、区民ニーズの把握や情報発信力を高めていく必要があります。

○成果指標

成果指標	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 10 年度)
窓口アンケートにおける「とても満足」の割合	63%	70%
区公式ウェブサイトのアクセス件数	60 万件	64 万件

○主な事業

- ① 職員の人材育成の推進
- ② 窓口サービスの向上
- ③ 区公式ウェブサイトの充実やSNSを活用した区役所の情報発信強化
- ④ 区民意見を取り入れた区政運営の推進



5 中村区将来ビジョン策定経過について

中村区将来ビジョン（令和6（2024）年度～令和10（2028）年度版）は、区役所内のワーキンググループでの検討を重ね、区民会議やアンケート調査など多くの区民の皆さまにご意見をいただき策定しました。

【区職員ワーキンググループ】

素案を作成するため、区役所の若手職員を中心にワーキンググループを開催しました。

期 間	令和4年度4回 令和5年度2回
メンバー	14名（各課2名）
内 容	・令和4年度 第1期の振り返り～次期将来ビジョンの骨格の検討 ・令和5年度 次期将来ビジョンの編集など、効果的にPRする方法などを検討

【中村区区民アンケート】

区民意識の調査や施策の成果指標の基準値などのためにアンケート調査を実施しました。

期 間	令和5年7月20日～8月18日
対 象	中村区に居住する満18歳以上の男女2,500人（外国人を含む）
回答者数	892人（回答率35.7%）

【中村区区民会議】

策定にあたり、区民会議で委員の皆さまからご意見をいただきました。

日にち	令和5年9月4日、令和6年2月27日
構成員	19名
議 題	次期将来ビジョンの素案についてなど

【区将来ビジョンワークショップ】

地域団体や学生、企業等の皆さまにお集まりいただき、ご意見をいただくためワークショップを開催しました。

日にち	令和5年12月17日
出席者数	31名
テーマ	地域で支え合うまちづくり ～社会的に孤立している方の社会参加に向けて～

発行・編集

中村区役所区政部企画経理課

〒453-8501 名古屋市中村区松原町1丁目 23 番地の1

電話 052-433-2759

ホームページ

<https://www.city.nagoya.jp/nakamura/>

FAX 052-433-2085

発行年月 令和6年5月